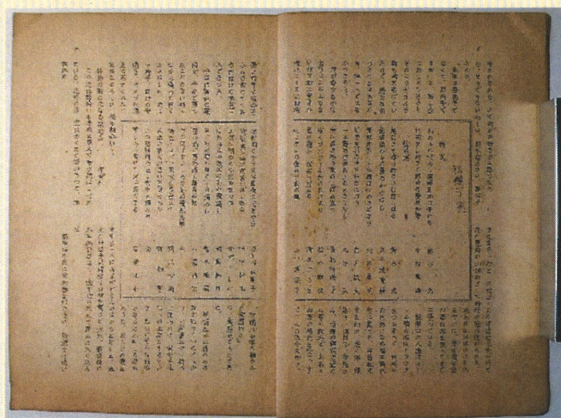


生業、自我、社会。一冊の俳誌に込められた戦後俳句史。

今回の展示では、敗戦の年に創刊され、昭和31年まで刊行された俳誌『雁坂』を中心に、皆野の戦後俳句の歩みを紹介します。

同誌には秩父郡内外から多くの俳人が参加しましたが、「派閥も結社も超えた作句道場」を表明していたこともあり、同人や会員は『馬酔木』や『寒雷』、『風』、『鶴』などさまざまな中央俳誌に所属していました。また金子兜太をはじめとする中央俳人も客稿や作品を寄せ、『雁坂』は多様な作品と評論で賑わいを見せました。

本展は、『雁坂』10年の歩みを3期に分け、中央俳壇の動向と合わせて俳誌としての動向や、俳人とその作品を紹介します。



水原秋櫻子を迎えた皇鈴山吟行会の記録
(『雁坂』昭和26年10月号)



伊昔紅(前列右から3人目)と『雁坂』一行
(昭和26年9月23日 於皇鈴山)

記念講演会

演題 「社会をみつめた俳句」

講師 田中亜美氏

1970年生まれ。98年より金子兜太氏に師事。『海原』同人。現代俳句協会会員。日本文藝家協会会員。

日時 令和6年11月17日(日)14時00分～

会場 壺春堂

定員 10名(定員超の場合抽選)

申込 令和6年11月8日(金)まで Eメールまたは電話で。

● Eメールの場合

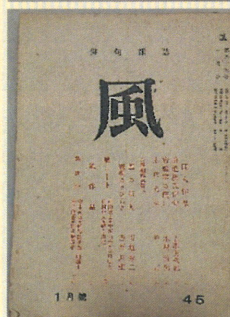
haiku.minano@gmail.com

- ※ 題名を「講演会申込」とし、本文に①参加者氏名(最大2名まで)、
②電話番号を明記してください。

● 電話の場合

0494-62-4563

皆野町教育委員会事務局 社会教育担当 まで



『雁坂』と同時期の
中央俳誌